



地域ブロックの運営をめぐる課題と今後の活動に向けて

副会長／地域ブロック委員会委員長 副田 あけみ（関東学院大学）

学会の運営委員会（現、役員会）は、昨年12月、『地域ブロック活動の実態等に関するアンケート』を実施しました。アンケートの目的は、地域ブロック活動をいっそう充実させていただくための支援として何が必要かを検討するため、各地域ブロックの活動状況や課題、学会への要望等を把握することでした。アンケート結果のなかから、ブロックの大会と機関誌、予算増額要望に関してご紹介します。

まず、研究大会ですが、各ブロックとも毎年度実施していました。大会参加費は非会員のみから徴収しているところもあれば、会員からも徴収しているところ、まったく徴収しないところといろいろでした。参加人数は15人程度のところもあれば、100人を超えるところもありました。

研究大会開催に関する課題としては、①参加者の少なさ、②会場確保のむずかしさ、③実行委員確保のむずかしさ、④講師謝礼などの予算不足、などがあげられていました。①や③の理由としては、ブロックのエリアが広いこと、研修会等が多く参加者が分散してしまうこと、教員が多忙であることなどが指摘されていました。

ブロック機関誌は、6つのブロックが年1回発行しています。電子ジャーナルと紙媒体は半々でした。今後は電子ジャーナル化を考えていきたい、というブロックもありました。2つブロックで、ブロック独自のホームページを作成し、電子ジャーナルをアップしています。いずれのブロックも、その機関誌をCiNiiに載せたいという希望をもっていました。機関誌発行の課題としては、その編集業務の負担が大きいこと、査読者確保がむずかしいことなどがあげられていました。

ブロック予算の増額については、4つのブロックから20万円から40万円程度の要望がだされました。編集業務や事務業務の一部をアウトソーシングするための費用、ホームページの開設費、大会開催や編集業務等におけるアルバイト費、学会員以外の講師への謝礼費などを確保するためです。

明らかになった以上のような課題や要望を踏まえ、また、これまでの地域ブロック収支計算書の検討等を通して、役員会では、2013年度から地域ブロック事業助成金のうち、一律配分額を30万円から50万円にアップする案を作成しました。そして、3月の理事会でこれを承認していただきました。

20万円のアップでは足りないところもあるかもしれませんが、任意団体のときの繰越金の活用や、大会参加費の徴収なども検討していただき、今年度は業務負担の軽減とともに従来とはちょっと違うブロック活動を展開していただくよう、役員会としてお願いしているところです。なお、学会ホームページにある「地域ブロック活動」欄の情報更新の迅速化や、ブロック機関誌の電子ジャーナル化の促進およびCiNiiへの掲載等については、今後も地域ブロック委員会や役員会で検討していく予定です。